



かもみーる通信



58号 2015年4月

トピックス

- * 男女共同参画推進室
- * 新室員紹介
- * カモミール月曆
- * テレワークシステム
- * サイエンス夢追い人育成プロジェクト
- * ランチタイム
カモミール・カフェ
- * ソロプチミスト岐阜賞
- * 保育園たより

岐阜大学男女共同参画推進室 新体制での出発！

男女共同参画推進室長 林 正子

2015年4月、男女共同参画推進室は7名の新室員を迎え、11名での構成となりました。従来の男女共同参画推進に加え、外国人構成員や障がいのある構成員の支援と文化的多様性の促進という課題にも注力する体制となっています。人材開発部職員育成課5名のメンバーとともに、岐阜大学における多様性人材活力推進の取り組みを積極的に進めてまいります。引き続き、皆様のご支援、ご協力、どうぞよろしくお願い致します。



男女共同参画推進室員



林 正子
副学長・室長
地域科学部 教授
— 担当 —
総括、地域連携



久保 倫子
教育学部 助教
— 担当 —
カモミールこども大学
(一時学童保育)



松尾 幸忠
地域科学部 教授
— 担当 —
研究補助員配置制度、
外部評価



森田 浩之
医学系研究科 教授
— 担当 —
セミナー、講演会、
シンポジウム・フォーラム



高橋 由起子
医学部看護学科
准教授
— 担当 —
学童・病児保育



新村 昌治
工学部 教授
— 担当 —
研究補助員配置制度、
インターネットによる
在宅研究支援システム



椎名 貴彦
応用生物科学部
准教授
— 担当 —
サイエンス夢追い人
育成プロジェクト



西尾 彰泰
保健管理センター
准教授
— 担当 —
メンター制度、
生涯支援プログラム、
障がいのある構成員への支援



魏 永芬
流域圏科学研究センター
准教授
— 担当 —
外国人構成員への支援
外国籍教員の増加



伊藤 弘司
人材開発部長
— 担当 —
学生アシスタント、
岐阜大学基金、
女性管理職の比率向上



相原 征代
特任助教
— 担当 —
コーディネート、
各種相談対応

男女共同参画推進室

WEB
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
E-mail
sankaku@gifu-u.ac.jp



新室員ご紹介

松尾 幸忠 地域科学部 教授

このたび新たに男女共同参画推進室員を拝命いたしました。「男女共同参画」という言葉から思い浮かぶ一番身近な例は、女性の職場でのあり方、及び子育てと言ったところでしょうか。何れも女性の側からだけでは解決できる問題ではなく、男性側の協力が必要となってきます。自分も子育てに携わる中で、この問題には非常に強い関心を抱いて参りました。今後、自らが室員としてどの程度お役に立てるのかは未知数ですが、努力して参りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

森田 浩之 医学系研究科 教授

男女共同参画推進室員を務めさせていただくことになりました。女性医師の割合は年々高まっており、2015年には全国平均でも20%を超えたと思われます。ただ、世の男女はほぼ同数ですので、まだまだ女性医師の比率は低いということになります。患者さんから同性もしくは異性の医師の診療を希望されることもありますし、男女を問わず同性だからこそ相談できることもあります。男女とも希望する仕事をしたい時にしただけできるという理想に向かって、一步一步前進して行きたいと考えています。

高橋 由起子 医学部 看護学科 准教授

4月から男女共同参画推進室員を務めさせていただくことになりました。私が所属している看護学科は、女性教員・女子学生が多い部署で、女性が多く直面する妊娠、出産、子育て、介護などの問題も多く抱えています。女性も、男性も社会の中で活躍し、「働く（はたらく）」（はた：周りを、らく：楽にする）ことができるのは、安泰な家庭があってこそだと思います。家庭を基盤にし“はたらく”ことができる、様々な支援体制を室員としてお手伝ひしたいと考えています。よろしくお願ひします。

椎名 貴彦 応用生物科学部 准教授

前任の田中逸夫教授からバトンタッチするという形で、着任することになりました。「男女共同参画」という言葉は知っているつもりでおりますが、具体的にどのような事業が行われているのか、また、それがどうして岐阜大学（とその職員）にとって必要なのか、いまだ十分には理解できておりません。林室長や室員の方々、事務の皆様からご教示いただきながら、本職を務めていく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

魏 永芬 流域圏科学研究センター 准教授

4月から男女共同参画推進室員に着任いたしました。流域圏科学研究センターに所属し、流域水環境リーダー育成プログラムに携わっています。発展途上国が直面する水質・水資源などの極めて深刻な水環境問題の解決に取り組む環境リーダーの育成に尽力しながら、衛星データを利用した流域スケールでの土地利用状況、植生の時空間変化、物質の動態に関する研究を行っております。一年間、微力ではございますが、誠心誠意、職務を遂行してまいりたいと存じますので、よろしくお願ひ申し上げます。

伊藤 弘司 人材開発部長

本年4月から人材開発部長として男女共同参画の推進に直接参画することとなりました。男女共同参画の推進は、「多様性人材活力推進行動計画」に包含され、より高度な視点で検討されていくと考えます。特に、「男女共同参画行動計画」の一丁目一番地である「男女共同参画の視点に立った教育・研究環境及び就業体制の確立」については、皆様をはじめ林室長及び他の室員のご指導を賜りながら、本学の取り組みが地域企業等のモデルとして確立できるよう、微力ながら意欲的に取り組みたいと思います。

相原 征代 男女共同参画推進室 特任助教

4月から特任助教に着任した相原征代です。社会学博士号をフランスで取得した関係で、ヨーロッパに住んでいた期間が10年ほどあったのですが、ヨーロッパと比較すると現在の日本社会は「女性に優しい」とは言い難い状況です。女性が存分に実力を発揮できるような社会は、「男性には居心地の悪い」社会では決してなく、むしろ、男女が共同して協働できる社会こそ、性別を超えた「人間らしい生き方」を追求できるのです。その実現に向けて少しずつですが、岐阜大学でがんばっていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

カモミール月曆（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

4月3日（金）、医学部記念会館にて「平成27年度新任職員研修会」が開催され、54名の参加者の方々を対象として、「岐阜大学における多様性人材活力推進」の取り組みを紹介する機会をいただきました。今回は、男女共同参画社会基本法、国の施策、岐阜大学の現状と取り組みなど、「男女共同参画推進」に係る事項とともに、「多様性人材活力推進」＝「ダイバーシティ」の概念についても簡単にご説明しました。

「ダイバーシティ」は、1990年代以降のアメリカ合衆国で、黒人・女性・障がい者・高齢者など、マイノリティを広く包括する思想として用いられるようになった言葉です。近年は、女性や外国人、性的少数者などの多様な発想を取り入れるという、企業活性化の手法として理解されており、日本でも、変化に強い組織づくりのマネジメント手法として、「男女共同参画推進」と併用されるようになりました。大学における「ダイバーシティ」とは、性別、障がいの有無、文化的相違などにかかわらず、人々が等しく尊重される組織であることをめざす理念であると言えるでしょう。

岐阜大学でも、「ダイバーシティ」を「多様性の尊重」と理解し、大学の使命として、「岐阜大学における多様性人材活力推進の基本方針／行動計画」を策定したことは、既にご紹介したとおりです。

<http://www.gifu-u.ac.jp/about/approach/diversity.html>

「多様性人材活力推進」に向けて、構成員の皆さんのご理解とご協力を、あらためてお願いする次第です。

インターネットによる在宅研究支援システム（テレワークシステム） 利用者募集のお知らせ

インターネットによる在宅研究支援システム（テレワークシステム）は、学外からVPN接続を利用して学内専用HPにアクセスできるようにすることで、育児や介護等により研究時間の確保が困難な研究者が、育児や介護等と研究との両立を図ることを目的としています。

利用対象者は次の方です。

- (1) 小学校6年生までの子どもをもつ研究者
- (2) 妊娠中の体調不良により、研究活動等の遂行に支障がある女性研究者
- (3) 市町村から要介護、要支援、障害者の認定を受けている親族について、主たる介護・看護者が申込者自身である研究者

男性研究者の方
利用できます！

男女共同参画
推進室WEB
サイトから

「テレワーク
システムによる
在宅研究支援」
をクリック

「インターネットに
よる在宅研究支援
システム利用申請
書」をダウンロード

申請書に必要な事項を
記入して、男女共同
参画推進室に提出



利用申請が認められた方には、IDとパスワードを発行します。
IDおよびパスワードについては、男女共同参画推進室において
直接受け取ることを原則としています。

＊本制度は、産前産後休暇、育児休業中の者に当該期間における研究を強いるものではありません。
利用については、体調に配慮をしながら無理のない範囲でご利用ください。

サイエンス夢追い人育成プロジェクト (女子大学院生による出前講義)

女子大学院生の皆さんに、県内の中・高等学校で自らの研究内容とこれまでの進路選択の経緯をお話していただいているこのプロジェクトでは現在、出前講義をしてくださる女子大学院生を募集しています。講師として参加すると、学会発表などにも役に立つプレゼンテーション能力を習得でき、自分の経験を振り返ることにより自身の研究の社会的意義を再認識できます(発表準備はスタッフがお手伝いします)。

みなさまのご参加をお待ちしております。

岐阜大学
サイエンス夢追い人育成プロジェクト
(女子大学院生による出前講義)
女子大学院生募集

サイエンス夢追い人育成プロジェクトは、女性研究者の育成および視野拡大を目的に、女子大学院生が県内の小・中・高校におき、これまでの進路選択における経験や研究内容について講義を行うものです。
講義・質疑応答を通じて勉強したい・話す・質問がらのご応募をお待ちしております。
まずは話だけでもいいので、お気軽にご連絡ください。

5/15
まで

参加するメリット

- コミュニケーション能力が向上する
- プレゼンテーション能力が向上する
- 自分の研究の社会的意義を再認識できる
- 教育実践を通して活動の幅が広がる
- 学内の先生同士とのネットワーク広がる

教育経験を通して、自身のスキルアップを目指しませんか。
発表準備は男女共同参画推進室のスタッフがお手伝いします。

申し込み方法
所属、氏名、連絡先を、メールまたは電話にて、男女共同参画推進室までお知らせください。

岐阜大学 男女共同参画推進室
TEL: 058-293-3397 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp
URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

ランチタイム カモミール・カフェ



4月22日(水)にランチタイム カモミール・カフェとして「サイエンス夢追い人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)説明会」を開催し、大学院生11名の参加がありました。

今回のランチタイム カモミール・カフェでは、今年度のサイエンス夢追い人育成プロジェクト(女子大学院生による出前講義)に関心のある院生を対象に、相原室員から出前講義の目的や当日までの準備方法についての説明と、昨年度に講師を務めた大学院生から講義の作り方についての紹介がありました。

国際ソロプチミスト岐阜賞受賞

工学研究科博士課程2年で男女共同参画推進室学生アシスタントの山口きららさんが、国際ソロプチミスト岐阜賞を受賞しました。この賞は、女性の活動を応援する国際ソロプチミスト岐阜のプロジェクトに対し、学業人材ともに優秀で研究に励み、将来の社会への貢献をしているとして、その活動の顕彰と今後の活動への期待を趣旨として贈られたものです。

ソロプチミストとは、ラテン語で「女性にとって最良のもの」を意味する奉仕団体です。



保育園式

3月27日



保育園たより



ご卒業

平成
26年度

岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel: 058-293-3378 Fax: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。